

(件名) 安心できる暮らしのために真夜中のデモフライト実施を、防衛省に求めてください。

(陳情の要旨)

2019年に防衛省による馬毛島の一部買収となって以降、馬毛島基地(仮称)計画については当初より大きく変更してきていることもあり、住民が十分に理解できている状況にはありません。特に、米軍及び自衛隊による年間飛行回数は28,000回以上、戦闘機訓練回数は米軍FCLPだけの当初計画をはるかに超えること、また真夜中3時までには及ぶなどが示され、私たちは騒音問題を最も強く懸念しています。

そのような中に、2021年5月に自衛隊のF15戦闘機によるデモフライトが行われました。その際の騒音測定値等も公表されましたが、運行計画とかけ離れたデモ飛行でした。現在進行中の環境アセスメント準備書においても、最大騒音が真夜中なのか日中なのかなど詳細な説明もなく、私たちが納得できる内容とは言えません。

このようなことから、私たち女性有志は真夜中のデモフライトを求める署名活動を今年5月中旬から開始しました。7月末までの短期間でしたが西之表市1,026筆、中種子町68筆、南種子町170筆、屋久島町146筆、それ以外の鹿児島市など県内の住民によって、合計1,774筆となり、8月5日防衛省へ提出しました。この署名は、馬毛島基地計画に対する賛否に関わらず、騒音への不安や懸念、安心安全な暮らしを望む多くの県民の声です。なおまた、先日の報道によると鹿児島県アセス専門委員からもFCLPの夜間騒音について詳細なデータを求める意見が出されています。

自衛隊馬毛島基地(仮称)は、一度始まったら二度と元に戻すことはできない巨大な軍事施設です。住民が十分に納得できる説明が必要です。最新鋭を備える自衛隊の能力をフルに発揮し、実施計画の機体を使用した真夜中のデモフライトの実施を、防衛省に強く要請していただきますようお願い申し上げます。